北海道新聞 28年3月1日（朝刊）

国立大学法人 小樽商科大学

国立大学法人 帯広畜産大学

国立単科大学の

新たな挑戦

北海道発の文理融合で産業活性化と人材育成を

北海道の国立単科大学である、小樽商科大学と帯広畜産大学。
専門分野のみならず、異分野を含めたグローバルな取り組みが求められる昨今、
文系と理系の両校が連携した共同研究が行われている。
これからの大学のあり方と人材育成についてお二人の学長にお伺いした。

全国へ卒業生を輩出し地域と国際社会に貢献

帯広畜産大学の原点となる帯広高等獣医学校は、獣医畜産に関する高度な知識と技能を有する人材を育成するために1941年に設置されました。その後、1949年の国立学校設置法により国立大学唯一の獣医・農畜産系単科大学として、帯広畜産大学と名称を改め設立されました。以来、食料の生産から消費まで一貫した環境がそろう北海道十勝に位置することを生かし、畜産学、生命科学、食品科学など農業畜科学分野の増設、整備・拡充を行い、「農学」「畜産科学」「獣医学」に関する教育研究を推進してきました。また、「食を支え、くらしを守る」人材を育成することにより、地域及び国際社会に貢献することに取り組んできました。

本学の特徴は、わが国唯一の国立農学系単科大学であり、全国各地から目的意識の高い学生が集まることです。本学の目指す獣医・農畜産融合教育の視点から、獣医学課程では動物の生命・生産・管理に秀でた獣医師を養成し、畜産学課程では農場から食卓まで生命・食料・環境を研究することにより、農畜産の幅広い分野で活躍する専門職業人を養成し、十勝、北海道はもとより全国各地へと卒業生を輩出してきました。

グローバル人材育成へ共同研究は大きな魅力

最近の海外からの人獣共通感染症の流行、TPPを背景とした食品貿易の自由化などに伴い、本学の役割である「食の安全と安心を守る」人材の育成を、これまで以上にグローバルに展開すべきだと思っています。北海道大学を除く道内国立六大学（室蘭工業大学、北海道教育大学、小樽商科大学、旭川医科大学、帯広畜産大学、北見工業大学）はそれぞれ単科大学として特徴ある専門職業人を養成しています。近年急速に進むグローバル化の中で活躍できる専門職業人は、特定分野の専門的な知識が求められる一方で、幅広い知識を身に付け、異なる考え方やアプローチ方法が理解できる総合力が必要とされています。グローバル人材の養成を目指す本学もこの「職業系（リベラルアーツ）」の重要性を強く認識しています。しかし、単科大学は教員数や専門性の問題からリベラルアーツ教育の展開は容易ではありません。

確固たる専門職業人養成とともにリベラルアーツを教育することは、「T字型人間を養成すること」とも言い換えられます。「専門分野の太い幹を持ち、その幹の上には横に広がる異分野の人たちとも語り合う強い意欲と教養を持っていること」、これを文字Tに例えているのでしょう。そうした視点から、帯広畜産大学が世界的にリードしている「客観的な肉質評価法」を世界基準とし、畜産業の発展、ブランド化へと導くために、経営感覚を持ってデータ管理などを行う小樽商科大学との共同研究には、大変魅力を感じています。文理融合の共同研究としてぜひ、成功させたいと思っています。

大学相互の連携により新しい価値の創造を

北海道には七つの国立大学がありますが、北海道大学を除く六大学は、医学、工学、獣医・畜産学、教員養成、商学の分野に特化して教育研究を行う単科大学であるところに大きな特徴があります。しかも、これらの分野は、元来、実学志向の強いものです。

これは、北海道の地にふさわしい特徴であるように思えます。明治の時代になってから、本格的に人やモノの移動、開拓が始まった北海道では、新しい産業を振興するための技術や実務的知識の導入、普及、人材の育成が急務であったからです。札幌農学校をはじめとする戦前の国立の高等教育機関には大きな期待がかけられたであろうことは想像に難くありません。その後、北海道には数多くの国公私立大学が設立され、それぞれの役割を果たしながら教育研究を行っています。

現在北海道は、少子化が他地域よりも早いスピードで進行し、またグローバリズムの影響をまともに受けています。大学には再び、北海道経済社会の発展のための貢献が求められています。今の時代における大学の貢献とは何でしょうか。各大学は、長い歴史のなかでそれぞれの役割を果たしてきました。これからは、各大学の実績をベースとして、相互に連携することによって新しい価値や成果を生み出していくことではないかと思います。

研究成果のビジネス化で経済の発展につなげる

これからの北海道経済の発展にとって不可欠なのは、深い専門的知識と幅広い視野の双方を兼ね備えたT字型人材の育成だと思います。その点でも、北海道の、特に単科大学が連携すれば、それぞれの専門教育を行いながら、学生に異分野の知識・理論を身につける教育を行うことができると思います。

小樽商科大学は、商科系の単科大学ですので、理系の大学との共同研究により、研究成果の商品化、ビジネス化を図り経済の発展につなげることを模索してきました。その一つの取り組みが、昨年から帯広畜産大学と帯広市の一般社団法人ミート・イメージジャパンとの間で進めてきた、牛肉質評価システムの標準化と畜産クラウドシステムによるデータ管理およびグローバル展開に関する共同研究です。このような、いわゆる文理融合型の大学間連携による共同研究が今まさに求められているのです。成果がすぐに生まれるものではありませんが、地道な努力を続けていくこと、その体制を作っていくことが重要です。

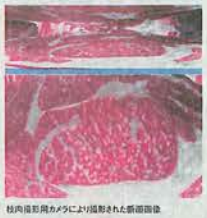
一方、幅広い視野を養う取り組みは、社会人の学び直しの点でも効果を発揮するはずです。小樽商科大学は、社会人教育に力を入れてきました。ビジネススクールによるMBA教育のほか、「旅館・ホテルの経営人材育成講座」（観光庁委託事業）、「地域包括ケアシステムの中核を担う医療経営人材育成事業」（経済産業省補助事業）などです。これらの取り組みを通じ、新たな知識と経験を持った人材が経済活動の担い手となり、北海道の発展につながっていくのだと考えます。

小樽商科大学学長
和田 健夫

1975年、全沢大学法文学部卒業後、北海道大学大学院法学研究科、小樽商科大学商学部助教授、同教授を経て、2014年に第10代小樽商科大学学長就任。研究分野は経済法。『流通産業と法（現代経済法講座）』（三省堂）、『論争独占禁止法―独禁法主要論点の批判的検討と反批判』（黎行社）、『経済法第7版―独占禁止法と競争政策（有斐閣アルマ）』（有斐閣）などの共著がある。日本経済法学会理事。

帯広畜産大学学長
奥田 潔

1977年、帯広畜産大学畜産学部獣医学科卒業後、ミュンヘン大学獣医学部大学院、京都大学、岡山大学農学部（家畜繁殖学）助教授、同大学獣医学部（自然科学研究科教授、同農学部長などを経て、本年2016年に帯広畜産大学学長に就任。専門は家畜繁殖学。日本生殖内分泌学会理事、日本獣医学会評議員、日本獣医師会産業動物学会幹事、岡山県獣医師会産業動物学会幹事、岡山県動物愛護財団理事などを務める。



枝肉撮影用カメラにより撮影された断面画像

客観的な肉質評価法の確立とその広範な活用を目指すプロジェクト

帯広畜産大学、および小樽商科大学などのスタッフにより「一般社団法人ミート・イメージ ジャパン」が平成26年12月に設立された。当プロジェクトは、デジタル画像解析を用いた食肉評価法の確立を目指すもの。現在、国内では牛肉の場合、日本食肉格付協会の格付員による目視で食肉評価が行われている。また、BMS（赤身の肉にどれだけ霜降りが入っているか、脂肪交雑を評価するための基準）のみによる評価にも限界が指摘されており、客観的な肉質評価方法の確立と、その広範な活用を当プロジェクトの目標に掲げている。この試みは、今後のグローバルな食肉流通において、世界的にも最先端の仕組みを構築するものである。新たな食肉評価法と、わが国が誇る牛トレーサビリティーシステム（牛の個体識別情報を確認できるシステム）を連動させることで、生産から流通・消費までのビッグデータの収集が可能となり、国内畜産業の発展、ブランド化へつながる。また、この取り組みが「食肉評価の世界スタンダード」となることを目指し活動している。

事業内容

①枝肉撮影用カメラ、および食肉評価（脂肪交雑詳細評価・肉色の等級識別決定等）システムの研究開発
②食肉格付システムへの導入・サポート
③おいしさをベースとした新たな格付システムの研究
④新たな指標による育種改良の取り組み
⑤食肉評価のグローバルスタンダード化の推進
⑥生産から流通・消費までのビッグデータの分析・解析に基づく「畜産クラウド」の実現（消費者やシェフの望む肉を的確にとらえ、より低コストで生産性の高い食肉を生産し、畜産業の発展、ブランド化を推進できるシステム）

枝肉撮影用カメラによる撮影の様子

企画制作／北海道新聞社広告局

研究成果発表合同シンポジウム

国際化時代における肉用牛肉質改良の展望

～高付加価値の肉牛生産に向けて～

司会：フリーアナウンサー 掛橋 愛理

2016年 3月19日［土］ 13:30～17:30 受付開始12:30～

入場無料（定員300名）

会場／札幌全日空ホテル3階 鳳の間（札幌市中央区北3西1）

申込方法／2016年3月10日［木］まで

E-Mail：メールの件名を「シンポジウム参加申込」として、本文に氏名（フルネーム）、ご所属（会社名等）を記載し、下記アドレスへお送りください。

FAX：「シンポジウム参加申込」とお書きの上、氏名（フルネーム）、ご所属（会社名等）、連絡先（TELまたはE-Mail）を記入しFAX送信してください。

申込FAX 0134-27-5293

※当日は、受付にて名刺1枚、頂戴いたします。※応募に漏れた場合、受付を辞退されていただきます。※「個人情報」は、シンポジウムの参加申込用途以外の目的で使用することはございません。

第一部／基調講演

我が国における肉用牛肉質改良の展望
菊池 淳志氏（農林水産省 生産局畜産部 畜産振興課畜産技術室長）

我が国の牛肉輸出の現状と今後に向けて
菱沼 毅氏（公益社団法人 中央畜産会 顧問）

第二部／研究報告

国産和牛肉の新しい肉質評価の可能性
口田 圭吾（帯広畜産大学 畜産飼生学研究部門 教授）

国産和牛肉の海外展開可能性について
李 濟民（小樽商科大学 ビジネス創造センター長）

第三部／パネルディスカッション

新しい牛肉質の評価・改良法について

●ファシリテーター／後藤 英之（小樽商科大学 ビジネス創造センター 准教授）

●パネリスト／ 青島 正泰氏（公益社団法人 日本食肉格付協会 専務理事）
鹿野 淳（一般社団法人 ミート・イメージ ジャパン 副理事長）
菊池 淳志氏
口田 圭吾
櫻井 保氏（独立行政法人 家畜改良センター 十勝牧場長）
菱沼 毅氏
李 濟民

■お問合せ 小樽商科大学ビジネス創造センター
TEL 0134-27-5290 ✉moo@office.otaru-uc.ac.jp

MIJ Meat Image Japan

■主催／一般社団法人 ミート・イメージ ジャパン
国立大学法人 小樽商科大学 帯広畜産大学 帯広畜産大学

■後援／一般社団法人 日本食肉格付協会、公益社団法人 中央畜産会、ホクレン農業協同組合連合会、十勝農業協同組合連合会、一般社団法人 北海道肉牛生産者協会、株式会社 北海道新聞社、公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）、北海道銀行、北洋銀行、札幌銀行、北海道信用金庫、日本農業新聞、十勝毎日新聞社